

## 2008年度 関東地方における シラコバトの個体数と個体数密度

小荷田行男<sup>1</sup>・浦達也<sup>2</sup>・池野進<sup>3</sup>・川内博<sup>4</sup>・高橋邦年<sup>5</sup>・若田部繁<sup>6</sup>・水野敦子<sup>7</sup>

1. 日本野鳥の会埼玉 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4-26-8 プリムローズ岸町107
2. (財) 日本野鳥の会自然保護室 〒141-0031 品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
3. 日本野鳥の会茨城県 〒310-0002 水戸市中河内町925-6
4. 日本野鳥の会東京 〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3F
5. 日本野鳥の会千葉 〒273-0003 船橋市宮本1-9-6 ポリタウン宮本302
6. 日本野鳥の会栃木 〒320-0027 宇都宮市塙田2-5-1 共生ビル2F
7. 日本野鳥の会群馬 〒370-0046 高崎市江木町980 新井ビル2F

### はじめに

シラコバトは国の天然記念物に指定されており、関東地方北部にのみ生息している。現在、天然記念物指定地の越谷の個体群（埼玉県教育委員会 1982）は姿を消しつつあり、埼玉県東部、茨城、群馬、栃木、千葉、東京との県境付近に生息（橋口ほか 2008）している。畜舎の家畜用飼料に食物を依存していたシラコバト（埼玉県教育委員会 1982）が、近年の鳥インフルエンザ対策により畜舎への侵入が困難になったため、生息域の縮小が懸念されている。そこで、2006年秋、日本野鳥の会関東ブロック協議会においてシラコバトの現状を把握する調査が提案された。これを受けて、2008年繁殖期と2008年—2009年の越冬期に日本野鳥の会関東ブロックに属する茨城、群馬、栃木、埼玉、千葉、東京の各会が連携したシラコバトの生息状況調査が行われたので、その結果をここに報告する。

### 方法

#### (1) 調査期間

繁殖期の調査は2008年5月10日から7月10日に、越冬期は2008年12月1日から2009年1月31日に実施した。一部の地域においては、2008年9月21日から10月29日の間にも生息調査を実施した。

#### (2) 調査対象

本調査は越谷で行われたシラコバト調査の先行研究である埼玉県教育委員会（1982）に従い、シラコバトに加えキジバト、ドバトのハト3種を対象とした。

#### (3) 調査方法

##### 1. 定点調査（畜舎におけるシラコバトの個体数調査）

シラコバト下限生息個体数の推定を目的とし、畜舎へのシラコバトの出入りを30分カウントし、生息数を把握した。定点調査は、後述の調査対象プロット中に1箇所を設定した。

##### 2. ラインセンサス（調査路による個体数密度調査）

2011年1月18日受理

キーワード：シラコバト、個体数、埼玉



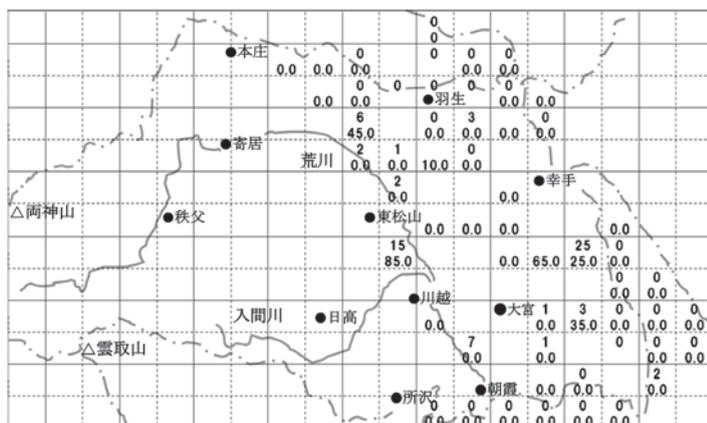


図2. 冬のシラコバトの個体数(上)と個体数密度(羽/km<sup>2</sup>)(下)(2008年12月1日から2009年1月31日)

バト生息が確認できたのは11調査プロットで、繁殖期と同じく島状に孤立していた(図2)。なお、図2において春日部を含む調査プロットで記録された個体数が25と大きな値となっているのは、動物園においてシラコバトへの給餌を行っているためである。同じく東松山の南東の調査プロットの15個体は、畜舎に集まっているためである。

埼玉県教育委員会(1982)の調査時には、ニワトリなどの畜舎を中心としてシラコバトが分布していた。畜舎を中心としたシラコバトの分布は本調査時も同様であるが、その畜舎の減少と畜舎への外部からの侵入の遮断がシラコバトの分布域の縮小に大きく影響したと考えられる。

シラコバト下限生息個体数は、足し算で考えれば繁殖期は46羽(図1)、越冬期は68羽(図2)となるが、いずれも2ヶ月の調査結果の合計値であり、調査プロットも同一でないため、この数字は目安にすぎない。

## (2) シラコバト個体数密度

図1、図2の各調査プロットの下部にラインセンサスによる1km<sup>2</sup>当たりのシラコバト個体数密度を示す。

繁殖期の個体数密度は1km<sup>2</sup>当たり0～70.0(図1)、越冬期は0～85.0(図2)の値を示している。0の調査プロットを除くと繁殖期は10.0～70.0、越冬期は10.0～85.0の値を示した。

## (3) シラコバト、キジバト、ドバトの1km<sup>2</sup>当たりの個体数密度比較

調査プロットにおけるシラコバト、キジバト、ドバトの1km<sup>2</sup>当たりの個体数密度は、シラコバト<キジバト<ドバトとなっており、それぞれ桁数が異なっていた(表1)。

ドバトは外来種であり、シラコバトは在来種である(日本鳥学会2000)が、シラコバトは江戸時代に鷹狩り用の猟鳥として東京、千葉などに放鳥されたものが野生化

表1 シラコバト, キジバト, ドバト 1km<sup>2</sup> 当たりの個体数密度比較 (羽 /km<sup>2</sup>)

	2008年繁殖期				2008/2009年越冬期			
	生息調査 プロット 数	非生息調査 プロット数	生息調査プ ロットでの 平均値(羽)	全調査プ ロットでの 平均値(羽)	生息調査 プロット数	非生息調査 プロット数	生息調査プ ロットでの 平均値(羽)	全調査プ ロットでの 平均値(羽)
シラコバト	15	34	26.9	8.2	6	45	44.2	5.2
キジバト	49	1	66.0	64.7	46	2	52.3	50.1
ドバト	35	3	135.5	124.8	32	6	154.0	129.7

したと言われている(小杉 1978, 叶内ほか 1998). シラコバトとドバトの湿潤気候における適応能力の差が個体数密度の大きな差となって表れたと考えられる.

#### (4) 2008年秋のデータ

一部の地域で調査期間外の 2008 年秋のデータが得られたので図 3 に参考として示した.

#### (5) 過去および本調査におけるシラコバト調査結果比較

過去に実施されたシラコバト調査結果と比較するため(埼玉県教育委員会 1982)に示された表を改変, 追加した(表 2).

1948 年 2 月の分布面積 12.6km<sup>2</sup>, 個体数 60 羽から順調に増加し, 2000 年 1 月から 2001 年 12 月, 分布面積は 1,094km<sup>2</sup> と最大に達した. 本調査の結果, 繁殖期, 越冬期とも, 個体数, 分布面積のいずれも急減した結果となった.

#### まとめ

1. シラコバトの現状を把握するため 2008 年繁殖期(2008 年 5 月 10 日～7 月 10 日)と 2008/2009 年越冬期(2008 年 12 月 1 日～2009 年 1 月 31 日)に定点調査(畜舎におけるシラコ

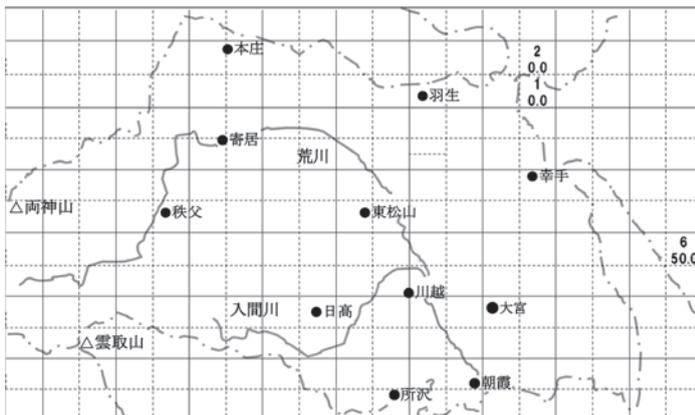


図 3. 秋のシラコバトの個体数(上)と個体数密度(羽/km<sup>2</sup>)(下内)(2008 年 9 月 21 日から 10 月 29 日)

表2 過去および本調査におけるシラコバト調査結果（埼玉県教育委員会 1982）に改変，追加．

年月	分布面積 (km <sup>2</sup> )	個体数 (羽)	個体数密度 (羽/km <sup>2</sup> )	調査地域 (調査面積)	観察者
1948.2	12.6	60	4.76	越谷	宇田川竜男
1950.2	12.6	80	6.35	(同上)	(同上)
1959.8	-	141	-	越谷	宇田川孝一
1960	21 以上	161	9.6	越谷, 松伏 (40km <sup>2</sup> )	小杉昭光
1963.1	-	193	-	越谷	宇田川孝一
1966.8	52 以上	542	10.6	越谷, 吉川 (81km <sup>2</sup> )	(同上)
1966.8-1967.2	-	399	19.4	越谷, 松伏 (40km <sup>2</sup> )	小杉昭光
1967.10-1968.6	90	580	6.4	春日部, 越谷, 松伏, 黒田長久 吉川など (146km <sup>2</sup> )	
1979.4-1982.3	492	-	-	埼玉県東部とその (埼玉県教育委 隣接地 (1,200km <sup>2</sup> ) 員会 1982)	
2000.1-2001.12	1,094	-	-	荒川以東の埼玉県 (橋口ほか 東部とその隣接地 2008)	
2008.5-7	375	46	8.2	埼玉県東部とその 本調査 隣接地 (1,225km <sup>2</sup> )	
2008.12-2009.1	150	68	5.2	(同上) (1,275km <sup>2</sup> ) 本調査	

注) 本調査では個体数と個体数密度の調査プロットに異なる所があるため，分布面積，調査面積は個体数密度調査結果を用いた。

- バトの個体数調査) とラインセンサス (調査路による個体数密度調査) を行った。
2. 調査対象地域は，埼玉県東部と隣接都県との県境周辺で，1: 25,000 地形図を縦横 4 等分した調査プロット毎に，定点調査とラインセンサスを実施した。
  3. シラコバト個体数の調査結果によれば，繁殖期は 33 調査プロット中，生息確認できたのは 14 調査プロットで島状に孤立 (図 1)，越冬期も 41 調査プロット中，生息確認できたものは 11 調査プロットで同じく島状に孤立していた (図 2)。
  4. シラコバト下限個体は，目安として繁殖期 46 羽，越冬期 68 羽であった。
  5. シラコバトの個体数密度は 1km<sup>2</sup> 当たり繁殖期 0 ~ 70.0 (図 1)，越冬期 0 ~ 85.0 (図 2) であった。キジバトの個体数密度は 1 km<sup>2</sup> 当たり繁殖期 0 ~ 245.0，越冬期 0 ~ 165.0 であった。ドバトの個体数密度は 1km<sup>2</sup> 当たり繁殖期 0 ~ 747.5，越冬期 0 ~ 945.0 であった。
  6. シラコバト，キジバト，ドバトの 1km<sup>2</sup> 当たりの個体数密度を比較すると，シラコバト，キジバト，ドバトの順に 1 桁ずつ値が大きくなっていた (表

1).  
7. 過去のシラコバト調査結果より、1948年から順調に分布面積、個体数とも増加し分布面積は2000年~2001年ピークに達した。本調査の結果、分布面積、個体数とも2008年度急減した(表2)。

8.

### 謝辞

本調査に当たり、調査の実施およびデータ整理に従事して頂いた日本野鳥の会の各会の下記の方々に深謝いたします。調査者:(埼玉)小菅靖,石川敏男,植平徹,佐々間博文,志村佐治,長谷部謙二,野村修己,佐藤宏,栗原省二,持丸順彰,海老原教子,新井巖,森本國夫,田邊八州雄,船木数樹,大澤祐,後藤康夫,内田孝男,石井智,長野誠治,橋口長和,内藤義雄,中里裕一,進士悦行,玉井正晴,大坂幸男,高橋ふみ枝,山口芳邦,逸見嶮,四分一保雄,藤掛保司,(茨城)菅原利喜男,大森美寿男,大森栄子,村上禎啓,小出義彦,一色安義,(東京)川沢洋三,

中村一也,(千葉)上田孝寿,大野真澄,小野和裕,畑中浩一,(群馬)松本文勝,伊藤隆文,飯塚正弘,太田進;データ整理:石井智,船木数樹,

1.

### 引用文献

- 橋口長和・田邊八州雄・玉井正晴. 2008. 2000-2001年におけるシラコバトの分布と生息地. *Strix*. 26: 105-114.
- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 日本の野鳥山溪ハンディ図鑑7. 山と溪谷社, 東京.
- 小杉昭光. 1978. 埼玉県動物誌「天然記念物と自然保護(3)シラコバト」. 埼玉県教育委員会, さいたま市.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 埼玉県教育委員会. 1982. 天然記念物緊急調査報告第3集 天然記念物緊急調査報告書「越谷のシラコバト」. 埼玉県教育委員会, さいたま市.

## Density of the Eurasian Collared Dove *Streptopelia decaocto* of the Kanto region in 2008 in comparison with historical records

Yukio Konita<sup>1</sup>, Tatsuya Ura<sup>2</sup>, Susumu Ikeno<sup>3</sup>, Hiroshi Kawachi<sup>4</sup>, Kunitoshi Takahashi<sup>5</sup>, Shigeru Wakatabe<sup>6</sup> & Atsuko Mizuno<sup>7</sup>

1. Wild Bird Society of Saitama, 4-26-8-107 Kishimachi, Urawa, Saitama 330-0064 Japan
2. Wild Bird Society of Japan, 3-9-23 Nishi-gotanda, Shinagawa, Tokyo 141-0031 Japan
3. Wild Bird Society of Ibaraki, 925-6 Nakakawachimachi, Mito 310-0002 Japan
4. Wild Bird Society of Tokyo, 5-18-16-3F Shinjuku, Shinjuku 160-0022 Japan
5. Wild Bird Society of Chiba, 1-9-6-302 Miyamoto, Funabashi 273-0003 Japan
6. Wild Bird Society of Tochigi, 2-5-1-2F Hanawada, Utsunomiya 320-0027 Japan
7. Wild Bird Society of Gunma, 980-2F Egimachi, Takasaki 370-0046 Japan